

クラス番号	312	担当教員名	木戸 利秋
テーマ	地域文化と福祉の接点から地域づくりを考える －行政と地域社会のコラボレーション－		
著書・論文 研究課題等	木戸利秋編『新潟の在宅ケア－新しい世紀をみつめて－』とき書房、2001年 木戸利秋編『その笑顔がみたいから－福祉改革期と穂波の里の10年－』萌文社、2004年 共著『福祉社会開発学－理論・政策・実践－』ミネルヴァ書房、2008年 研究課題：地域ケアと住民自治、イギリスの貧困・社会的排除研究		

## ゼミナール概要

キーワード：

### 目的、内容、方法等：

社会福祉へのアプローチを考える場合、利用者や住民が抱える貧困や生活問題への視点に加えて、彼らがどのような地域の歴史文化的環境のなかで生きてきたのかを問うことは、その人らしい生活を実現するうえで欠かせない視点のように思われます。なぜなら、地域の歴史文化的な環境は、そこに住む人の生き方や価値観に少なからず影響を及ぼしているからです。

社会福祉の今日的課題として地域共生社会の実現があげられていますが、そのためには地域住民が享受している地域文化がどれだけ豊かに存在しているのか、ひとつのパロメーターと言えます。豊かな地域文化の存在は、その背後に地域の、あるいは集落の自治が健在であることを示唆しており、他者への気づかいや支え合いが息づいていることを予感させるからです。

そこでこのゼミでは条件不利地域を主な研究対象におきながら、マクロレベルでの地域再生の議論の動向に注意を払いつつ、社会福祉の側から地域の再構築にどのように関わっているのか、を問いながら、行政と地域社会の役割について明らかにしていくことを課題とします。条件不利地域のなかで、なぜ住民はそこに住み続けたいと思うのか、豊かな自然環境、地域の伝統文化に囲まれた暮らしが、地域への愛着の形成、住民間のつながりの形成に肯定的に作用している可能性があります。現在、国は福祉の公的責任を縮小しながら、地域に受け皿づくりを委ねようとしています。都市部よりも地域文化を継承している条件不利地域は、地域福祉をボトムアップで作りあげていく可能性を持っています。

まずゼミでは、前期、介護民俗学に関する文献を読み、高齢者施設の利用者の暮らしと文化を捉える視点を学びます。可能であれば美浜キャンパス近くの高齢者施設で利用者の生活史を聞き取るフィールドスタディを行います。後期は佐渡へのフィールドスタディの準備と卒業研究のテーマ設定にむけた準備を行います。また社会福祉士国家試験対策等についても、ゼミで取り組む予定です。

**授業計画：** 以下は計画案であり、ゼミで議論して取り組むなかで変わる場合があります。

- 1 オリエンテーション
  - 2－8 介護民俗学に関する文献購読 全体を7回程度のゼミに分けて、議論。
  - 9－11 高齢者施設でのフィールドスタディ（あるいは佐渡でのゼミ調査映像から地域文化を考える）
  - 12－14 フィールドスタディのまとめ
  - 15 前期まとめと後期の課題
  - 16－23 ソーシャルワーク実習semester期間。実習はおおむね前半と後半に分かれる。
- その時期に実習に該当しない学生グループで、伝統文化の宝庫と言われる佐渡島でのフィールドワーク（2泊3日）を実施。費用は自費が基本。新型コロナで実現できない場合、オンラインでのフィールドスタディを検討。
- 24－27 卒業研究テーマ設定にむけた準備、テキスト購読 適宜指示する
  - 28－30 佐渡調査のまとめとレポート提出、卒論にむけた問題意識の交流、進路の再確認と春休みの課題

### 担当教員からのメッセージ



これまで自分の町の地域文化に様々な思い出があるという人も多いと思います。このゼミでの学習やフィールドワークを通して、自分の町の良さを再発見でき、そこで自分が働く喜びを見いだせるようになるといいですね。

フィールドワークの体験を通して得られた成果を、自分の卒業研究や就職活動、国家試験勉強のモチベーションにつなげていけるような学びをめざしたいと思います。